

講義名	専門基礎演習(人)			授業形態	
担当教員	山本 勝巳	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

本科目の1～10回目の授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を習います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「聞く」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを基とし、受講の際に必要な能力から順に獲得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。指定した教科書のワークシートを用い、その時間をこなしながら実践的に行うものとします。

11～15回目の授業では、1～10回目までの授業で習得した基礎的な能力を活用できる形で、担当教員が専門とする分野・領域に即した授業を行います。具体的には、自分と他の受講生の発言を「見て」、その音声の特徴を調べるために必要な基礎的な知識と技術を学び、データに基づいた論理的な議論の素養を習得します。

到達目標

大きくは、大学生としての学修(研究)に必要な基礎能力を身に付け、パソコンを使ったアカデミック・ライティングができるようになることを目指します。また、専門分野に関する学修の入口を理解することを目指します。具体的な目標について以下に示します。

「大学で学ぶ」意味を理解できる。
ノードをとる技術、文脈を読む技術を習得できる。
レポート作成のための情報収集ができるようになる。
パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。
プレゼンテーションのための基礎的な技術が習得できる。
自分の声のデータを使って、基礎的な分析ができるようになる。
分析結果を適切な形式でレポートにまとめることができるようになる。

提出課題

- 10回目まで
ワークシート：40%
欠席は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。登退を過ぎた提出は、一律に1点となる。
小課題：10% 第9回の授業でWord, Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。
11回目
課題：50%
毎回の分析結果に考察を加えて次の授業までに提出。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出課題については登退講義内で確認します。

評価の基準

課題提出状況及び記述内容で判断します。課題提出が10回以下の場合、単位認定の対象になりません。

履修にあたっての注意・助言他

受講生には好奇心を持ってほしい。演習で取り上げる課題についてだけでなく、そこから派生する事柄について調べることも重要。特に後半に入ると初めて聴く用語が多いと思いますので必ず予習・復習をしてください。

教科書

『知へのステップ(第5版)』	学習技術研究会編	くろしお出版	1980	9784874247891
----------------	----------	--------	------	---------------

参考図書

なし。

その他

授業中に適宜資料を配布します。

授業計画

【第1回】学習技術とは <テキスト第1章・ワークシートNo.1>
・「大学で学ぶ」とはどのようなことか
・タイムマネジメント
【第2回】講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシートNo.2>
・講義ノードをとる技術
【第3回】概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシートNo.3>
・文脈を読むための基礎的な技術
【第4回】要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシートNo.4(1)(2)(3)>
・文献の内容を要約する技術
・自分の意見をまとめる技術
【第5回】情報収集(1)・(2) <テキスト第5・6章・ワークシートNo.5>
・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術
・インターネットで情報収集を行う技術
【第6回】情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワークシートNo.6>
・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術(Excelを使用)
【第7回】レポートを書く <テキスト第8章・ワークシートNo.7(1)(2)>
・レポート(論文)を書くための基礎的な技術(=アカデミック・ライティングスキル)
【第8回】わかりやすい表現 <テキスト第9章・ワークシートNo.8(1)(2)>
・わかりやすい表現技術(文、論述書き、表、グラフによる表現)
【第9回】パソコンによるライティング・スキル <テキスト第10章・ワークシートNo.9>
・WordとExcelを活用したレポート作成の技術
【第10回】プレゼンテーションの手順を作る <テキスト第11・12章・ワークシートNo.10(1)(2)No.11(1)(2)(3)>
・プレゼンテーションをつための基礎的な技術
【第11回】話しことばの特徴(理論)
【第12回】話しことばの特徴(実践)
【第13回】話しことばの分析1
【第14回】話しことばの分析2
【第15回】まとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：教科書の指示された範囲を確認し、内容をまとめておく(各自2時間)
復習：授業内容を踏まえた復習用課題の作成(各自2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

情報収集力・情報分析力を育み、人間社会学部生に特に求められる「実証的な調査研究の方法」に習熟する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考